

令和4年度（2022年度）第1回北海道史編さん委員会議事録

日 時 令和4年6月6日（月）15:00～16:15

場 所 北海道立道民活動センター（かでの2・7）7階 710会議室

1 開会

2 議事

- (1) 各部会・小部会の活動状況等について（報告）
- (2) 『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』の原稿案について
- (3) 北海道史の編さんスケジュールについて

3 その他

4 閉会

1 開会

立澤主幹

- ただいまから、令和4年度第1回北海道史編さん委員会を開催いたします。
- 私は北海道総務部文書課道史編さん室主幹の立澤でございます。よろしくお願いいたします。
- 開会に当たりまして、総務部次長兼行政局長の増田から一言ごあいさつ申し上げます。

増田総務部次長兼行政局長

- 皆さんこんにちは。総務部次長の増田と申します。北海道史編さん委員会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。
- 委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、日頃から道政の推進に当たりまして、各方面からご協力・御尽力を賜りまして厚くお礼を申し上げます。
- 当委員会につきましては、知事の附属機関として平成30年に設置され、「北海道史」の刊行を通じ、郷土の歴史に対する道民の皆さまの理解と関心を深めていただくよう、皆様には道史の編さんの推進に御尽力をいただいております。
- 今回で、当委員会の開催は5回目となっております。本日は、来年3月に「道史編さん計画」上の初刊となります『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』の答申原稿を中心にご審議をいただきたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。
- この『資料編2』につきましては、コロナ禍の中、担当する産業・経済部会の坂下部会長を始め、専門委員、調査研究委員、調査研究協力委員の皆様の御尽力によりましてとりまとめられ、この5月に、企画編集部会での審議を経て、原稿の成案がまとまったと伺っております。
- 道史につきましては、令和9年度までに合計8冊の刊行を予定しております。
- 今後も、コロナ禍の下、厳しいスケジュールではございますけれども、調査・執筆を担当される各部会の委員の皆様には、引き続き、編さん作業にお力添えを賜りたく考えてございます。
- 本日は、編さん委員の皆様には、この新しい道史が、道民の皆さまに長く親しまれ信頼されるものとなりますよう、専門的で、かつ道民の視点でのご意見を賜り、また、計画通りに編さん作業が進みますよう、引き続きの御尽力とお力添えをお願い申し上げます。開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。
- 本日はどうぞよろしくお願いいたします。

立澤主幹

- 議事に移らせていただく前に、富田満夫委員がご都合により退任されたことによる後任の委員をご紹介します。
- 北海道森林組合連合会の代表理事専務でいらっしゃいます中村学委員です。

中村（学）委員

- 中村でございます。よろしくお願いいたします。

立澤主幹

- 続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。
- 総務部行政局文書課長の鳥井です。

鳥井課長

- 鳥井でございます。よろしくお願いいたします。

立澤主幹

- 同じく文書課道史編さん室長の吉原です。

吉原室長

- 吉原でございます。よろしくお願いいたします。

立澤主幹

- 続きまして、本日の出欠状況について報告いたします。委員総数15名のうち、本日は伊藤委員、折谷委員、瀬尾委員、田端委員、小林委員が所用によりご欠席となっておりますが、「北海道史編さん委員会条例施行規則」が定める、2分の1以上の委員の出席という開催要件を満たしていることをご報告いたします。
- 続いて資料確認をさせていただきます。（配付資料について、順次確認）
- それでは議事に移りますが、これからの進行につきましては、小磯委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 各部会・小部会の活動状況等について（報告）

小磯委員長

- それでは、本日の議事進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本委員会は1年半ぶりということで、久々の開催です。この間、コロナ禍の下、編さん作業を進められたということで、大変制約も多かったというふうに推察いたします。関係者の皆様の御尽力に感謝申し上げます。時間も限られておりますので、早速議事に入っていきたいと思っております。議事（1）各部会・小部会の活動状況について、事務局から報告をお願いします。

吉原室長

- 活動状況は、資料1-1のとおりでございます。部会ごとに、委員の一覧、会議の開催状況、資料調査の状況、と記載しておりまして、個別の内容については記載したとおりでございますので、割愛させていただきます。
- 1年半ぶりの審議であり、また、初めて出席される委員もいらっしゃいますので、この機会に、道史編さん計画や、委員会の組織の概要を簡単に説明させていただきたいと思います。
- なお、参考資料1に、審議の基本となる「道史編さん大綱」、「北海道史編さん委

員会条例)、「道史編さん計画」をまとめておりますので、適宜ご参照いただければと思います。

- まず、編さん計画の概要について、この会場の後方に設置したスクリーンの方で説明いたします。お手元の資料1-2はスクリーンと同じものです。
- 道に関わった北海道史は、戦前・戦後を通じてこれまで3回編さんされており、今回で4回目の編さんとなります。
- 今回の北海道史の構成についてですが、「現代史」5冊、「概説」2冊、「年表」1冊の計8冊の構成です。この表は、「道史編さん計画」からの抜粋です。
- 8冊中、主となりますのが「現代史」で、概ね第二次世界大戦後から平成15年(2003年)までを対象としています。資料編は、「政治・行政」、「産業・経済」、「社会・教育・文化」の3冊です。通史編は2冊、合計5冊で、令和4年度から令和8年度まで、1冊ずつ、刊行していく予定です。
- 資料編が3冊あるのに対し、通史編が2冊となっておりますが、これは、「道史編さん大綱」の編さんの方針にありますように、現代史は資料の提示に重点をおいた内容としているため、資料編の分量が多くなっています。
- 今年度は、初刊である『資料編2(産業・経済)』の刊行を来年3月に予定しており、議事(2)で、詳しく説明させていただきます。
- 次に概説『北海道クロニクル』についてですが、現代史が戦後の北海道を対象として詳しく叙述する方針であるのに対しまして、『北海道クロニクル』では、『新北海道史』刊行以降の北海道史研究の成果を反映させ、考古から現代に至る北海道史をわかりやすく叙述するものです。令和9年度に刊行予定です。
- 年表については、『新北海道史』で作成した年表を底本とし、刊行直近年までを収録することとしており、『北海道クロニクル』と同じく令和9年度の刊行を予定しています。
- 続きまして、編さん委員会の組織について説明いたします。
- 資料は、裏面の2ページになります。
- 北海道史編さん委員会は、ただいま開催している「親会」と、その下に設置された部会で構成されています。
- 親会は、知事の諮問に応じ、調査審議などを行うものであり、部会は親会から付託された事項について調査審議を行う関係にあります。また、編さん大綱(第6編さんの組織)では、編さんに関する重要事項について検討を行うものと規定されています。
- 委員会には、専門の事項を調査審議させるために、専門委員と臨時委員を置くことができるとされており、その専門委員で構成されているのが、企画編集部会であります。道史の編さんに係る企画、編集及び調整を行います。
- 企画編集部会による編集の方針に基づき、実際に、道史の編集及び調査を行うのは、政治・行政部会、産業・経済部会、社会・教育・文化部会、概説部会の4つの

部会です。

- 本日審議いただきます『北海道現代史資料編2（産業・経済）』を担当しているのは、産業・経済部会で、掲載する資料の収集や絞り込み、解説文の執筆などを行っています。政治・行政部会、社会・教育・文化部会もそれぞれ、部会と同じ名称の資料編を担当しています。この3つの部会は通史編2冊の編さんも担当します。
- 社会・教育・文化部会は、さらに2つの小部会に分かれ活動を行っています。
- 右端の概説部会は、『北海道クロニクル』を担当し、前近代小部会と近現代小部会に分かれて活動を行っています。近現代小部会は、今のところは近代を担当する委員で構成されていますが、今後は、現代史を担当する3つの部会の委員が近現代小部会に合流し、『北海道クロニクル』の編さん作業に当たっていく予定となっています。年表につきましても、概説部会での作業と並行して進める予定です。
- 企画編集部会の説明に戻りますが、構成員は、4つの部会の部会長・小部会長、部会長代理等を担当されています。また、企画編集部会の8名の委員のうち、3名の委員で「北海道史への扉」編集小部会を構成し、年1回発行している『北海道史への扉』の企画・編集等を行っています。
- なお、各部会を構成する委員につきましては、資料1-3をご覧ください。全体で55名の委員で構成しています。一番下に、小川委員と記載がありますが、北海道博物館の学芸副館長であり、全ての部会におけるアイヌ関係の調査研究を担当しています。また、近現代小部会の大藤委員は、産業・経済部会にも所属しています。
- 議事（1）の報告につきましては、以上でございます。

小磯委員長

- 本日出席されている委員の中に、企画編集部会の委員が2名いらっしゃいます。桑原委員は、企画編集部会の部会長で編集長というお立場です。また、坂下委員は、副編集長で、産業・経済部会の部会長というお立場でいらっしゃいます。それぞれの立場から、ただいまの事務局報告について、補足のご説明あるいはご発言がございましたらお願いします。

桑原委員

- 今年度は『北海道現代史 資料編2』がこのシリーズとして最初の刊行を迎えるということで、私は編集長として随分緊張したわけですがけれども、見通しがつきそうなので、内心でほっとしているところです。ただし、この『資料編2』の解説原稿がまとまった段階で、その内容について、どのようにして校閲するかという手順・手続などについては、明確にしていなかったため、事務局と編さん担当者間で若干の齟齬が生じました。しかし、この問題も関係者の御尽力により解決し、今後、残りの「資料編」の1と3を刊行の際には、この2で採用した校閲の形式でやっていってはどうかと話をしているところでございます。

小磯委員長

- ありがとうございます。坂下委員、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

坂下委員

- はい。特にありません。

小磯委員長

- ありがとうございます。今日は初めての方もおられるということ、また、久しぶりの開催ということで、事務局の方から、組織についての説明がございました。
- 企画編集部会は道史の編さんに係る企画、編集及び調整を行うという重要な役割を担っているということ。
- その下に、それぞれの専門分野に関する作業部会として4つの部会が設置されており、企画編集部会による編集の方針に基づいて、実際の道史の編集及び調査を行っておられます。
- 一方、本日開催しております、この編さん委員会（親会）は、そういった各部会が、この委員会からの付託を受け、専門的に行っている編さん作業を踏まえ、広い視野から重要事項について検討するという役割を担っているということをご理解いただけたかと思います。
- 改めて委員の皆さん方、ただいまの報告、桑原委員のご発言を踏まえて、ご感想やご意見でも結構です、ご発言がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。（発言なし）
- よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(2) 『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』の原稿案について

小磯委員長

- 議事（2）『北海道現代史資料編2（産業・経済）』の原稿（案）について、事務局から説明をお願いします。

吉原室長

- まず、資料2-1により、『資料編2』の原稿案の編さん及び審議の経過について、簡単に説明させていただきたいと思います。
- 1の『資料編2』を担当する産業・経済部会の活動の状況についてですが、平成30年度は会議を4回開催しました。主な検討事項は、全体の構成案、資料調査の進め方等であり、資料編のスタイルの検討をする中では、4名の委員が各自の担当分野の掲載について検討した結果を部会において報告し、それを元に検討するといった工夫がなされました。また、資料調査も始まりました。
- 令和元年度には会議を2回開催し、主な検討事項は資料の収集状況等で、具体的な作業としては、前年度から引き続きのスタイルの検討、また、資料調査が本格化しました。
- 令和2年度は会議の開催は1回で、各担当分の節の構成や掲載資料の検討を主に行いました。作業内容では、資料調査及び、調査した資料の中からどの資料のど

の部分に掲載するかという絞り込み作業が中心になりました。事務局においても、委員が選んだ資料の筆耕作業を行いました。現代史といえども、戦後間もない時期の資料などは、いわゆるガリ版刷りで印刷されているため不鮮明な箇所もあり、また劣化が激しいものなども少なくなく、OCR（光学式文字読み取り）での読み取りができないため、ほぼ手打ちで筆耕するケースも多かったです。

- 令和3年度は、会議の開催は1回で、主な検討事項は解説文の執筆やその他の最終調整でした。作業内容は、記載していますように、原稿案をまとめ上げていくため、資料の絞り込みや差し替え、追加の資料調査など、様々行いました。
- 令和4年度については、この資料の3で説明いたします。
- 2の掲載資料及び解説文の担当者、掲載した資料の数については、表のとおりとなっております。第9章の金融と観光については、最初から担当されていた委員の退任により、部会で引き継ぐこととなったものです。
- 次に、裏面をご覧ください。3の原稿案の審議や校閲等の状況についてですが、令和2年度に当委員会を開催した時点では、令和2年度末で資料の集約は終了し、令和3年度は刊行に向けて資料の精査や解説文の準備に取り組むこととしておりましたが、コロナ禍等の影響により、作業は半年以上遅れてしまいました。掲載資料の集約は、令和3年の10月頃に概ね終了し、それに伴って目次案が10月末に出来上がりました。それをもって、11月22日に企画編集部会を開催し、掲載予定資料の審議を開始しました。翌月の12月13日には、産業・経済部会の会議を開催し、企画編集部会での指摘事項を伝えるとともに、解説文の執筆についてもお願いいたしました。
- 解説文の集約や、部会長によるチェック・修正指示などを1月中旬から2月にかけて行った後、3月2日に第2回目の企画編集部会を開催し、掲載資料と解説文とを合わせての審議が行われました。この会議で、解説文にかかる指摘がいくつかあったことを踏まえ、4月には、改めて、産業・経済部会の中で、委員の持ち回りによる校閲と、それに基づく解説文の修正作業が行われました。それをもって、5月9日に企画編集部会を開催し、校閲後の解説文と掲載資料の審議を行い、本日の会議に提出する原稿案が決定されました。
- 現在、来年3月に発行するために必要な印刷・製本の期間がギリギリのところにあります。その要因としましては、コロナ禍等の影響による編さん作業の遅れが大きかったわけですが、そのような中、資料調査、掲載資料の選別、解説文の執筆、校閲と、お忙しい中取り組んでいただいた産業・経済部会の皆様、3回にわたり審議をされた企画編集部会の皆様には、ほとんどの方が大学の教員としてのお仕事などの傍ら、さらに、コロナ禍で遠隔授業などの対応などもある中、御尽力をいただき、ここまでは何とか、刊行スケジュールに間に合わせる事ができているというところでございます。
- 資料2-2につきましては、産業・経済部会がこれまでに行ってきた資料調査の

状況をご紹介するもので、これまで当委員会での会議資料として配付してきたものをまとめたものとなっております。

- 続きまして、資料2－3をご覧ください。『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』の概要について説明させていただきます。
- 表紙に、章立てを記載しておりますが、令和2年度第2回の委員会で説明したのから、10章のタイトルを「労働」から「労働運動」に変更したほかに、変更はございません。
- 次に、1～2ページの第1章を見ていただきたいと思います。「第1章 地域経済と経済政策」は、2つの節で構成し、資料には、章ごとに、通し番号を振っています。各章はこのようなスタイルを基本としています。
- 2ページの「第2章 農業」の第1節（1）の2「『満洲』からのJターン入植」のように、1つの表題について①②の2種類の資料を掲載しているものもあり、このように通し番号を振ったひとつの表題の下に2つ以上の資料をぶら下げる方法は、必要に応じて、他の章でも用いています。
- 3～4ページは第3章として「林業」、4～5ページは第4章として「水産業」に関する資料を掲載しております。
- 5ページからは「第5章 工業・情報通信」ですが、章内をまず【工業（資本財）】、7ページの【工業（消費財）】、【情報通信】に分け、それぞれ隅付き括弧で表し、その下に節がくるようにしています。このような組み立て方は、他の章でも用いている場合があります。
- 7ページは、「第6章 商業」、8～9ページは「第7章 建設業・交通」、9～10ページは「第8章 鉱業・エネルギー」、10～12ページは「第9章 金融・観光・サービス」、12～13ページは、最終章の第10章で、労働運動に関する資料を掲載しています。
- 次に、資料編2の冊子全体の構成、仕様、刊行スケジュールについて説明いたします。
- ここに『新鳥取県史』をお持ちしておりますが、出来上がりは、このようなA5版、クロス貼りのハードカバーで、厚さも同じ程度になります。（実物を出席者に見えるように提示。）
- 資料2－4をご覧ください。1の「全体の構成」についてですが、表紙を開けますと、まず1番目の標題紙があり、次に口絵を配します。次に、「序」（知事）、「はじめに」と続きます。「はじめに」では、現代史の刊行に当たり、資料を重視した内容とする意義などについて説明するという趣旨で、桑原編集長が執筆しています。
- 次に、「凡例」、「目次」、「資料目次」で、目次は章・節のレベル、資料目次は、章・節ごとに資料1点1点を記載したものです。
- 次に解説文と資料で、章ごとに、冒頭に解説文を配し、次に資料を配置します。

- 次はあとがきで、資料編2を担当した産業・経済部会を代表して、坂下委員が執筆しています。
- 次に執筆者一覧を配します。
- 次に、協力者・協力機関一覧として、掲載資料の所蔵元、掲載を許諾していただいた機関や個人を記載します。
- 次は編さん関係者一覧で、委員会及び各部会の委員、事務局職員を掲載します。初刊ですので、刊行時点で在籍していない委員や職員も併せて記載します。
- 最後に、奥付となります。
- 次に、2の「仕様」についてですが、表に概要をまとめております。
- 次に刊行スケジュールについてですが、本日、当委員会で原稿案について、御承認いただけましたら、この原稿をもって答申いただき、その後、今月中に印刷製本業務に係る入札の告示をし、7月に入札、契約と進め、来年2月に校了、3月末に刊行というように考えております。
- 続きまして、解説文及び資料については、資料2－5のとおりでございます。ここでは、資料編の特徴について、説明させていただきます。
- 先ほど、議事(1)で、現代史は、資料の提示に重点をおいているため、資料編の分量が多いという説明をさせていただきました。かつて道内において、昭和43年前後は、いわゆる「北海道100年」ということで、市町村史が盛んに編さんされましたが、当時は、資料編又は資料というものはどちらかという通史の添え物として見られがちなところがあったのではないかと思います。しかし、その後、歴史資料は、通史における叙述と異なり、刊行時点での解釈に左右されないものというように認識されるようになり、近年では資料編を重視する傾向が多く見られます。
- 『北海道現代史』の編さんに当たっても、戦後の時代の変化の中、道内各地で生じた様々な事象の紹介を通して、一般的な歴史書ではうかがい知れない様々な場面に光を当てることに努めました。
- そのため、収録した資料には、公立図書館などで大切に保管されてきた刊行物ももちろんありますが、資料を一般に公開することがない企業や団体等に対しても資料調査への協力をお願いし、閲覧させていただくことができた貴重な文書なども多く含んでいます。
- このような視点で選んで掲載しておりますので、資料編では歴史的な事象がパッチワークのようにちりばめられており、必ずしも、歴史の流れを順序よく追っていくという組み立てではなく、一般的な歴史書や資料集に慣れ親しんでいる方にはぱっと見ただけでは分かりにくいことも考えられるため、掲載した資料の意義や背景などが理解できるよう、各章の冒頭に、解説文を付すという構成にいたしました。
- 最後に、解説文は、校正に不十分な点があり、同じ言葉が章によって漢字で表されていたり、仮名で表されたりするなどしていますが、これらは、今後、整理して

いく予定です。

- 説明は以上でございます。

小磯委員長

- 桑原委員、坂下委員から、補足の説明はございますか。

坂下委員

- それでは少し補足させていただきます。
- 初めての巻ということで、一応、資料収録要領などもありましたが、やってみるとそう簡単ではなくて、試行錯誤の上に、大体「こういうことはいこう」というように決まっていた経過があります。
- 資料2-1の経過についてですが、平成30年度は、4回集まりまして、かなり議論しました。メンバーは、大体、経済史の分野の研究者なので、それぞれ専門分野は違いましたが、横並びでお互いに勉強しようと、研究会のような形でスタートしました。その中で、通史編のことも考えながら意見交換をしようということだったのですが、コロナ禍になってしまい、それでも少しは頑張ったのですが、外出は自粛ということもあり、リモートというやりかたもあるなどと言っているうちにどんどん時間が経って資料調査があっぴあんな状況になってしまい、当初考えていたような研究会方式の部会開催は断念することになりました。通史に向けては、コロナの状況を見ながら、研究会的な形で、部会の委員の年齢層も幅広く、年代によって問題意識も変わってきていますので、その辺を調整しながら進めていきたいと考えております。当初予定から遅れましたが、一応、最後まで編さんが終わり、安心したところでございます。

小磯委員長

- 桑原委員はいかがでしょう。

桑原委員

- 先ほどの事務局の説明の中で、資料編を厚くしていろいろなものを重点的に配置したとありましたが、北海道庁並びに北海道では、これまでに道史を3回編さんしてきました。この3回が何に重点をおいたかといいますと、北海道全体の通史的な発展を明らかにするということでした。明治以降の開拓使や道庁時代に国から随分たくさんの補助金をもらったわけですが、その成果がどのように北海道開拓に結びついたかを北海道の中から内地に向かって発信するというような使命があったものですから、道庁としては、北海道の発展の状況というものを通史という手法で明らかにするというところに重点を置かざるを得なかったのです。ところが、本州の方では、資料編というものにこだわっており、府県史は、通史よりも資料編が随分巻数が多いわけです。北海道の場合は、『新撰北海道史』も『新北海道史』も資料はありますけれども、それはまとまった資料を何点か載せているだけで、道内にたくさん存在する小さな資料を調べて収集してその中からこれというものを選んでいないということではないという問題があるわけです。

- 今回の道史は、最近の主な他府県の動きに対応するために、通史を犠牲にするというわけではないですけれども、資料編というものをもっと重視する必要がある。なぜかという、通史や概説というものは、そのときどきの情勢によって見え方が変化する可能性があって、通史の内容というのは、時代によってやはり変わってくるわけです。
- 資料というものは、内容自体は変化しないため、刊行する時点での解釈に左右されないことから、資料編を充実するというところでございます。

小磯委員長

- 今回の作業は、資料編を重視するというお話が桑原委員からありました。また、大変ご苦労があったのだなということ、先ほどの坂下委員のお話から感じられました。そんな中で、当初の予定の中で、何とかぎりぎりのところで進んでいるということでした。
- さて、皆さん、いかがでしょうか。せっかくの機会でございますので、感想でも結構ですけれども、ご意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。
- 中村委員、お願いします。

中村（真）委員

- 資料2の2の「産業・経済部会における資料調査の状況」の51と57に個人宅とありますが、これはどのようにして選ばれたのでしょうか。

吉原室長

- 51番に関しましては、製菓に関係するいろいろな企業について調べていく中で、この企業に関しては、元社員の方が本を書かれたらしいということがわかって、話を聞きに行ったというもので、57番についても、サッポロバレーに関わった方に、お話を伺ったということです。資料調査の過程では、組織はもうなくなってしまい、資料も見付からないけれども、人づてに調べていくうちに、関係者が個人的に資料を持っているとか、お話が聞けそうだったといった情報が集まってくることもあり、そのような場合は、関係者の方にも協力をお願いしてお話を伺ったりすることがございます。

西田委員

- 資料2-3と資料2-5の編目の整合性についてですが、資料2-3の12ページ中段、【サービス業】の第2節から第5節までが、資料2-5の原稿案と見比べると、編成変えがあるようなのです。原稿案の方が最終案なのか確認させていただきたいと思います。

小磯委員長

- 事務局の方からお願いします。

吉原室長

- 資料の2-3のご指摘いただいた箇所は、修正しきれませんでした。資料2-5の原稿案が最終案でございます。資料2-5の資料目次だけでは、資料の詳

細がわかりにくいいため、これまでの会議で説明のために使ってきた目次案を資料 2-3 として今回も配付したのですが、修正しきれていなかったようです。申し訳ありませんでした。ありがとうございます。

西田委員

- あともう一つ気になっているのが、タイトルなのですが、『北海道現代史資料編 2』の「産業・経済」となっていますが、この巻の中に「労働」がありますよね。第 1 章の政策関係の方は、中にいくつか労働がちりばめられていますが、第 10 章「労働運動」は「運動」が付いた形になっています。令和 5 年度に刊行される『資料編 3（社会・教育・文化）』との絡みもあるかと思うのですが、あちらの方は社会運動というくくりで捉えられると思います。それで、『資料編 2（産業・経済）』の後ろに中黒「・労働」を追加して巻のタイトルを『資料編 2（産業・経済・労働）』にしてはいかがでしょうか。

小磯委員長

- 坂下委員、お願いします。

坂下委員

- ご指摘ありがとうございます。労働運動は、「社会運動」の分野で取り上げる部分もあると思いますが、例えば、炭労など、経済活動と密接な部分はやはりここで入れておかなければということで入れたわけです。
- したがって、巻タイトルを「(産業・経済・労働)」とすると、少々趣旨が変わってしまいますし、長くなってしまいます。

西田委員

- 読者から見たら、「労働運動」はあっても「労働」がどこにも出てこないから、いったいどこに入っているのだろうかという疑問が起きると思うのですが。

坂下委員

- 第 10 章は、最初は「労働」だったのですが、違う意味もあるものですから、特に北海道では、労働運動は、全国的に見てもユニークなものあるのでやはり外せないということで、「労働運動」に改めました。

西田委員

- わかりました。産業構造と密接なので「労働運動」ははずせないということですね。でしたら、桑原委員が執筆する「はじめに」のところでそのことにちょっと触れていただければなおさらいいのではないかと思います。

坂下委員

- それでしたら、私が執筆する「あとがき」の方で触れるということにさせていただきます。

吉原室長

- 補足ですが、「労働」という言葉は紛らわしいので、当初、第 10 章は「労働」としていたものを「労働運動」とし、第 1 章第 2 節で扱う「労働」については、第 10

章と区別するため、節のタイトルで「雇用」という言葉を使っています。

坂下委員

- そうです。第1章と第10章で扱っています。

小磯委員長

- 西田委員、それでよろしいでしょうか。

西田委員

- あとがきで触れていただくと分かりやすいと思います。

小磯委員長

- では、その辺の経過を含めた趣旨について、あとがきでご説明いただくことで、よろしくをお願いします。
- ほかはいかがでしょうか。感想でも結構でございますが、よろしいでしょうか。

吉田委員

- 大変ご苦労さまでした。原稿案をメールで送られてきたときには、量が多くて読む元気がなかったのですが、今ここで拝読させていただいて、すごいボリュームをお調べになったのだなと思いました。ご苦労様でした。刊行されたものを読ませていただくのをとても楽しみにしております。
- 質問もあるのですが、よろしいですか。エネルギーに関してちょっと気になったのは、電源の開発と自然環境保護というのは、十勝の方では、結構活発に議論が行われていたと思うのですけれど、そのような扱いというのは、これから「社会」の分野で入ってくるのでしょうか。

吉原室長

- 環境問題は2巻目の「社会・教育・文化」の方でも扱っていきますが、今の時点ではまだ何も申せませんが、そういうご質問があったということはお伝えしていきたいと思います。

坂下委員

- 「現代史」が対象とする期間は戦後から概ね2003年までとなっております、今おっしゃったような分野のことは最近になって取り上げられるようになってきていて、環境問題は、どちらかというと2000年以降にかなりいろいろな問題が出てきているのではないかと思います。産業・経済部会でも、議論の中では、それ以降も書きたいという意見もあつたりしたのですが、2000年辺りまでで整理いたしました。

小磯委員長

- よろしいでしょうか。ありがとうございます。
- これだけ大部のものを直前にいただいてここで一言一句見ていくというのは難しいと思いますが、編さん委員会の役割というのは、基本的な考え方、重要事項について審議ご検討いただくということでございます。ほかに、ご意見ございませんか。(発言なし)

- よろしければ、今回、最初の編さんということをごさいます、コロナ禍で大変ご苦勞の多い作業だったわけですが、何とか当初のスケジュールどおり進めていくという前提もあり、このたび提出されたこの案で、『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』という形で進めていくということについて、ご了承いただけますでしょうか。ありがとうございます。それではその方向で進めたいと思います。

(3) 北海道史の編さんスケジュールについて

小磯委員長

- 議事(3)に移りたいと思います。北海道史の編さんスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

吉原室長

- 資料3をご覧ください。
- 前回の令和2年度の当委員会で配布したスケジュールについて、修正を加えたものです。
- 上から5行目までは、『北海道現代史』を刊行予定順に掲載しています。
- 1行目は、ただいまご審議いただいた『資料編2』で、令和4年度末の刊行予定でございます。
- 2行目の、『資料編3（社会・教育・文化）』については、現在、編さん作業を進めているところで、令和5年度末の刊行を予定しています。
- 3行目の、『資料編1（政治・行政）』は、現在資料調査等に取り組んでいるところです。令和6年度末の刊行を予定しています。
- 以下の通史・北海道クロニクル・年表についても、順次、刊行にむけて、検討を進めていく予定です。
- 以上でございます。

小磯委員長

- ありがとうございます。ただいまの編さんスケジュールの説明について、ご質問ございますか。
- これからの作業がなかなか大変で、まだまだ時間のかかる作業ということです。大事なことは、これまで行ってきた作業やその成果、反省や検証を次にしっかりとつなげながら、作業を積み重ねていくということではないかなと思っています。
- どうでしょうか。このスケジュールの中で、今後進めていく上で、コロナ禍という特殊な事情もありましたけれども、これだけはしっかりやっていきたいというふうな、これまでの感想みたいなものはおありでしょうか。

桑原委員

- 私は編集長を務めていますが、私が言うのもどうかと思いますが、このスケジュールは、かなりきついですね。はっきり言って、始めから10年でやるという方針があり、それに無理矢理当てはめたという面が無きにしも非ずなのです。ですから、

資料編を出した段階ですぐ通史編に移行するということになってはいますが、この間に若干、時間的余裕を与えないと、やるのは人間ですから油ぎれを起こすと思います。前回の『新北海道史』は30年近い時間をかけて、3年に1冊くらいのペースで刊行していました。今回も、計画通りにできればそれに越したことはないのですが、それは難しいのではないかと考えています。

小磯委員長

- ありがとうございます。大変貴重なご意見だと思います。そのようなご意見が、この時点にあったということも、残しておいていただきたい。今後、いろいろな形での議論の際に、その考え方も含め、改めて、どんな形で進めていくのがいいのかという本質的なところを問題意識として持ちながら、これからの編さん作業を進めていくことが必要だなというふうに思っております。ほか、いかがでしょうか。

西田委員

- 桑原委員の、大変きついスケジュールになるとのご意見は、私も、このスケジュールを拝見して、これは大丈夫なのだろうかというふうに思います。これだけの分量のものを毎年1冊ずつ刊行するというと、今の人的配置では誰か倒れるのではないかという、厳しい状況だと思います。特に政治・行政部会の委員は、3人でしたね、これだけ分厚い資料編を3人の委員で果たしてうまく進められるのだろうかという、率直な心配というか、疑問があります。もし、政治・行政部会でどなたか委員を増やす予定があれば、そのように考えていただくのも1案ではないかと思えます。

吉原室長

- 人員については、政治・行政部会にニーズを伺っていきたいと思います。
- 参考までに、各部会のメンバーと刊行順に係る経緯を申しますと、資料編の書名の順では1が「政治・行政」、2が「産業・経済」、3が「社会・教育・文化」となっていますが、編さん計画で「産業・経済」を1冊目とすることとしています。これは、産業・経済部会が人数が多くも少なくもなく、構成も早くから固まっていたので、3つの部会の中では最も編さんに時間がかからないだろうということからでした。一方、政治・行政部会は、当初から、委員を増やさず少ない人数で編さんすることとしましたが、委員が少ない分、1人当たりの作業量は多くなるので、3冊目の刊行にすることとしました。そういうこともありながらの部会のメンバー構成であったり、刊行の順序であったりということでございます。
- ただ、これまで編さん作業をしてきた中で、委員を増やしたいというニーズがあるかもしれませんので、その辺は部会のご意見を伺いながら進めて参りたいと考えております。

西田委員

- コロナという大変な事態は誰も予測できなかったわけですが、委員も、事務局も半年分の作業ができなかったということになっています。柔軟な姿勢で考慮して

いただければと思います。

桑原委員

- 政治・行政部会は、当初から、小回りがきく少人数で作業を行いたいと希望していました。大丈夫なのかという心配はありましたが、強く希望されるものですから、認めたわけです。これからはどうなるのかという問題はあるかもしれませんが、このような経緯があるということをお話しておきます。

小磯委員長

- それぞれの部会での判断、やりやすい方法というものがあると思いますので、そういった考え方を確認しながら、進めていくということをお願いします。
- それからもう一つ大きな問題は、これだけ長期にわたり、しっかりとしたスケジュールに沿って進めていくための、予算も含めての体制のサポートだと思います。確か、前回のこの委員会でも、事務局体制をしっかりと強化というような声も出ていたかと思います。その辺は、この委員会でそういう声があったということを含め、あるいはいろいろな機会を捕まえて道史編さん事業の重要性というものをしっかりと押さえながら、編さんを進めていくための体制の強化ということで、私も努めてまいりたいと思います。ほか、いかがでしょうか。貝澤委員、お願いします。

貝澤委員

- 資料3の道史編さんのスケジュールで、『資料編3（社会・教育・文化）』のところで、今年の手定としましては、原稿審議というところまでのスケジュールが書かれているのですが、現状、ここに掲載される資料が、どのような視点をもって、どのように構成されているのでしょうか。

吉原室長

- 資料編に掲載する資料は、多めに選択して、そこから、載せなくてもいいものを除いたりして手定のページ数に合わせていきます。社会・教育・文化部会では、各委員が担当分野に関して割り当てられた資料数の1.5倍程度の資料を選択して提出していただくことにしています。現状は、1.5倍の資料がほぼ集まったところです。今後、そこから絞り込みの作業を行っていきます。同時に、構成も検討していきます。例えば、今回の「産業・経済」のように分野ごとに構成していく方法もありますし、全体をひとまとめにして、時系列で並べて構成する方法もありまして、そのようなことを今後、検討していくこととなります。構成が見えて来たら、ご質問いただいたようなことについてご説明できるのではないかと考えております。

貝澤委員

- ありがとうございます。「社会・教育・文化」は内容が多岐にわたると思います。資料編の重要性というものは、本日、冒頭でお話していただいたところがありますので、私としましては、やはり北海道の成り立ちから考えれば、アイヌに関わる部分といいますのは、戦後からの資料として残されているものは結構あると思うのですね。資料編全体の中での収め具合もあるかと思いますが、集めた中からどれを

掲載していくのか、そういう視点というものをしっかり持って、北海道の歴史とアイヌが関わっているのだということが『資料編3』の中でも見えてくるような形が望ましいかなというふうに思いまして、発言させていただきました。よろしくお願いいたします。

小磯委員長

- ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。（発言なし）
- それでは各委員からご発言があった趣旨を踏まえて対応していただくということで、議事（3）北海道史の編さんのスケジュールについては、このような形で進めていくということで、ご了承いただきました。
- 予定された議事は以上でございます。全体を通して何か皆さんからこの機会に、ご発言、あるいはご要望でも結構ですが、ございますか。よろしいでしょうか。それでは議事は終了しましたので事務局の方にお返しをしたいと思います。

3 閉会

吉原室長

- 小磯委員長、委員の皆様ありがとうございます。
- 本日承認された事項やいただいたご意見等を踏まえまして、今後各部会で編さん作業を進めていきたいと考えております。
- さて、編さん委員会の委員の任期は2年でありまして、今期は本年6月10日までとなっており、今期の委員での会議は、本日が最後となります。ほとんどの委員は再任となる予定ですが、公募委員の中村真実委員は、今期をもってご退任されることとなります。中村委員にこの場をお借りしお礼申し上げます。2年間にわたりまして誠にありがとうございました。
- なお、今後の編さん委員会の開催につきましては、別途ご案内してまいりますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

立澤主幹

- それでは以上をもちまして、令和4年度第1回北海道史編さん委員会を終了いたします。長時間にわたり御審議いただきましてまことにありがとうございました。